

# 小美玉市の歴史を知ろう③

二〇一〇年

三

まず土器ですが、多くの土器が出土したなか、東海地方

を、まさに塗り替えるような調査成果で、当時は大変ショッキングなニュースであつたようです。

と考えられます。  
この権現平2号墳の出土品  
は、現在、参考展示「南関東  
との交流」にて展示されてい  
ます。またここから出土した

と考えられます  
この権現平2号墳の出土品  
は、現在、参考展示「南関東  
との交流」にて展示されてい  
ます。またここから出土した  
土器2点は玉里史料館にて  
常設展示されてもいます。ぜ  
ひ、ご覧いただきたいと思  
います。

参考展示

「南関東との交流  
会への道のり」

会期  
12月21日(日)まで

12月21日（日）まで  
会場 小美玉市玉里史料館（小美玉市生涯学習センター内）

開催日  
12月14日(日)  
午前10時30分 展示解説会

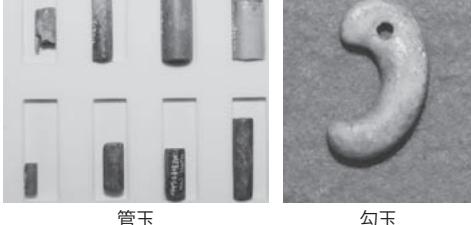


現在、展示されている権現平2号墳出土土器

現在、生涯学習センターにユースモスで、福祉につこりまつりやこどもまつりが行われる際、臨時駐車場として利用されている空き地(通称権現山駐車場)は、もともと4基の古墳があり、平成2年に発掘調査が行われました。この発掘調査で、実は、それまでの茨城県や霞ヶ浦沿岸域の歴史を塗り替えるような大きな発見があつたことは、あまり知られていません。

これは方形周溝墓（ほううけいしゅうこうぼ）と呼ばれる  
いしゅうこうぼと呼ばれる  
古墳時代の初めごろの古墳で

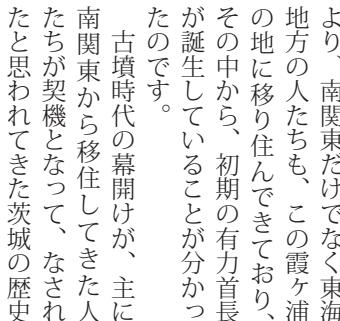
す。方形周溝墓自体は弥生時代に近畿地方で出現し、後、南関東まで広がりました。茨城にはその後の古墳時代になつて導入される首長墓であります。一辺が20mを越す大形のもので、発掘当時は県内で最大級のものでした。この権現平2号墳の特徴は、土器の特殊性と副葬品の豊富さにあります。この部分においても、それまで見られなかつたものが多々出土し、専門家や関係者の注目を浴びました。



常設展示されている、権現平2号墳から出土した土器  
(東海地方の土器の影響が強く出てます)



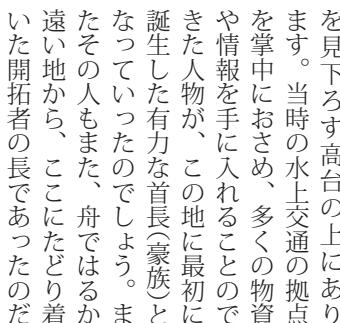
## グリーンタフ製の剥片



より、南関東だけでなく東海地方の人たちも、この霞ヶ浦の地に移り住んできており、その中から、初期の有力首長が誕生していることが分かつたのです。



### 紡錘車形石製品の破片



を見下ろす高台の上にあります。当時の水上交通の拠点を掌中におさめ、多くの物資や情報を手に入れることでのできた人物が、この地に最初に誕生した有力な首長（豪族）となつていったのでしよう。またその人もまた、舟ではるか遠い地から、ここにたどり着いた開拓者の長であつたのだ

の格差平2号墳の発掘調査が行われるまでは、一部、東海地方や畿内地方、北陸地方のものが出てましたが、圧倒的に南関東のものが多く、それらの地方のものは、南関東の人たちを経由して、茨城に入ってきたものだと考えられていたのです。しかし、権現平2号墳で東海地方の土器が

が、梅原平2号墳の場合、勾玉、管玉といった玉類をはじめ、グリーンタフという石を打ち欠いたもの(剥片)や、紡錘車形石製品の破片など、多種類の副葬品が出土したのです。この点においても、霞ヶ浦に最初に誕生した有力首長の墓であることは、まず疑いようがありません。

〔小美玉市教育委員会  
生涯学習課 26-9111  
(次回の掲載は2月号です)